



学級経営 何を大事にしていますか？ ～学校訪問レポート～

学校訪問で様々な学級経営の取組を伺っています。活気と温かさを感じる学級で大切にされていることをいくつか集めてみました。ご参考いただければと思います。

1 学級の目標 — 価値観をともしにする —

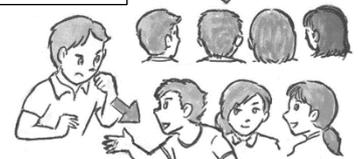
担任と子どもたちが同じことを大切だと考える学級は安定する。

- ①価値を押しつけるのではなく、担任の思いとして伝える。
- ②同じ教室で過ごす一員として子どもと一緒に目標を考える。
- ③教師として譲れない信念がありますね。これは徹底する。

縦の関係



斜めの関係



横の関係



2 言葉の力 — 最も重要なスキル —

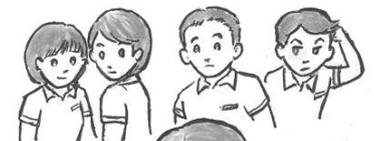
丁寧に細々とではなく、わかりやすく話すことが担任の必須スキル。

(1) 端的でわかりやすい話

- ①一文を長くしない。
- ②難しい言葉を使わない。
- ③具体例やイメージできる例を示す。

(2) 担任の言葉の力を弱めない

- ①宣言したことにこだわり、3月まで言ったことを貫く。
- ②間違いがあれば素直に認めて、訂正や謝罪をする。



3 子どもとの関係 — うまくいかない時は点検を —

子どもは、担任との関係が良ければ良いところを、関係が悪ければ悪いところを出す。

(1) 公平性と個別の受け止めの両立が基本

子どもは不公平やえこひいきを嫌う。同時に自分個人を受け止めてほしいとも願っている。

(2) 担任が大人のモデルになる

例えば、困っている子どもに寄り添う担任の姿を、子どもたちは見て習っている。

(3) ここぞという時は、1対1で本気の勝負をする

押さえ込もうとするのではなく、正面からきちんと向き合って伝えること。

(4) 時には、先生の本音を出すことも

辛い時は辛い、悲しい時は悲しいと先生が自己開示することが、関係を豊かに育てる。



4 叱る・ほめる・頼む — 子どもの心に届ける —

(1) 「叱る」とは助言すること、「怒る」とは感情をぶつけること

良くない行為を叱って、人格は否定しない。叱るべきことを見逃すと、周囲が不満を持つ。

(2) その子どもやその場面に合ったほめ方を

高学年になれば、本人にだけこっそり伝える方が良い場合もある。

(3) 子どもに頼むことで信頼を伝える

何気ないことでも、大事なことでも、子どもを信じて任せることに効果がある。

5 わかりやすい授業・一人ひとりの学びを大切にしている授業

学校生活の大部分が授業時間。子どもが授業で満たされていることが根幹になる。

- ①わかりやすい授業、解決や発見をしたくなる授業、子ども同士を結ぶ授業をめざす。
- ②授業のルールは、一人ひとりの学びを互いに大事にすることが目的だと意味づける。

6 朝の会・終わりの会・係活動 — 積み重ねの影響 —

10分ほどの時間でも、毎日行うので学級への影響が大きい。

- ①大切にしたいことをくり返して伝える。担任の目から見たクラスの様子を伝える。
- ②子どもの活動を子どもたちにフィードバックする。
- ③一人一役の役割があることが居場所になる。係活動で登校できた子どももいる。

7 教室環境 — 教室を整えることの心理的な効果 —

いつも教室を整えておくと、学級の異変に早く気づける。

- ①きれいな環境は学級を大切に考えさせ、乱雑な環境は何をしてもかまわない意識になる。
- ②居心地の良い学級には、子どもの表現、先生のメッセージや視覚支援の掲示物がある。

8 リーダー指導 — 自治的な集団は手をかけて育てる —

リーダーは育てるもの。リーダーが育てて集団が育つ。

- ①指導の大半は、リーダーが前に立つまで。リーダーと担任が目標を共有して、見通しを持たせてから立たせる。
- ②担任の立ち位置は、最初は横。リーダーが成長するにつれて、補佐する位置に離れる。
- ③リーダーへの補佐は、集団の子どもたちの意識づくりや他の先生方の協力の取り付けも含まれる。
- ④活動後、毎回教師が評価することが大事。活動したことの評価や意味づけをしてやって集団が育つ。



9 ルールのあり方 — 防御する心、探究する心、どちらで生活するか —

子どもが集団生活を楽しみにする育て方を考える。

- ①先生が理由を語れないルールは見直す。そうでないと、できないことを叱る指導に陥る。
- ②やってはいけない範囲とやってもよい範囲を示して、何をするかを考えさせる。

10 チームの力 — 担任が一人にならないように —

学級担任が一人で問題を抱え込まずに、周囲に情報を伝え合い、援助要請を。チーム力で問題行動が落ち着いていった例がある。

- ①校内の生徒指導マニュアルを作成して、職員全員の意識を高め、報告や対応を早め、関わり方を全員で共有した。
- ②専門家とアセスメントをして、見通しを持って対応した。
- ③精神的な疲労は自覚しにくい。メンタルヘルスの助言で不調の兆候に気づいた。



TNBだより令和6年2月号 参照

※学校問題サポートチームも皆様を支援いたします。ご相談下さい。